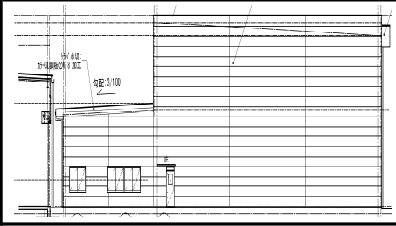


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE_BD_NC_2016(v3.0)_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	宇都宮工業株式会社 本社工場	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県豊川市大木町柏木2番地1	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	120 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,450 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年6月 予定	評価の実施日	2023年9月8日
敷地面積	25,190 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社中部第一級建築士事務所 長谷川 文彦
建築面積	2,125 m ²	確認日	2023年9月8日
延床面積	2,089 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社中部第一級建築士事務所 長谷川 文彦



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">18.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
宇都宮工業株式会社 本社工場

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 ソーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	3.0	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										3.3
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	3.0	0.52	-	-	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	
		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	
3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	

② 主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用

3 対応性・更新性				0.4	3.7	0.48	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			3.9m以上		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率:0.097	3.0	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②		3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性				ケーブルラック	3.0	5.0	0.11	-	-	-
4 通信配線の更新性				ケーブルラック	3.0	5.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化				3.0	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用				1.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			節水型器具、節水コマを採用	0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②		3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	5.0	0.25	-	-	
躯体と仕上げ材が容易に分別可能				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					-	-	-	-	-	
1 消火剤					3.0	0.50	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒					3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			①		-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	3.3	0.50	-	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止					5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自		2.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.5	3.2	0.50	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		3.0	0.50	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	
3 悪臭					3.0	0.50	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					5.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいち版手引き

宇都宮工業株式会社 本社工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化: 18.5%/建物緑化: 0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 宇都宮工業株式会社 本社工場

計画上の配慮事項	
総合	施設利用者が快適に過ごせるよう室内環境やサービス性能の向上に努めている
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	耐用年数の高い建材を利用している
Q3 室外環境(敷地内)	緑地計画をしている
LR1 エネルギー	建物で消費される各種エネルギー消費量を年間に渡って把握している
LR2 資源・マテリアル	節水型器具を採用している
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用していない
その他	特に無し